特別支援学校 高等部 自立活動

〈授業の概要〉

1 授業名：視線で伝えよう【コミュニケーション】

2 授業の内容

・視線入力装置を使って相手に自分の気持ちや要求を伝える学習。今回の指導では、自分の気持ちや要求、相手への質問など、伝えたい内容や相手がはっきり伝わることを目標に行った。

3 生徒の実態

【一般】

・高等部 1 年生（生活教養科）。

・脳性麻痺による両上肢機能全廃、体幹機能障害（坐位不能）で、車椅子を使用している。

・日常生活はほぼ全介助（療育手帳 A1、身体障害者手帳 1 種 1 級所持）である。

・人懐っこく明るい性格で、好きな教師や友だちを見たり、話しかけられたりすると、笑顔や声で反応する。

【自立活動】

・小学 6 年生の 2 月から視線入力装置を使用している。

・有意味な発語はないが、快・不快、Yes-No は声や表情、顔の動きなどで伝える。

・遠城寺式乳幼児分析的発達検査では、「言語理解」が他の領域に比べ高く、言葉かけに応じて人や物を見たり、日常会話にも上記のような手段で応えたりすることができる。

・画面上の2～9つ程度の選択肢から自分の気持ちや要求、相手への質問を視線で選択できる。

・選んだ内容に対して「〇〇のこと？」と確認をされると Yes-No で答えることができる。

〈授業改善の前の様子〉

1 これまでの子どもの実態

・視線入力装置を使って会話をする場面で、画面上に視線を送り質問ボタンを押した後、相手が答える前に別の質問ボタンを押す様子があった。相手は最初に押した内容に答えるべきか、後に押した内容に答えるべきか迷い、本人や担任に再度質問内容を確認していた。また、その場に複数名いる場面では、誰に聞いているのかわからず、担任が確認していた。ボタンを押した後、本人が「伝えて」と言うように、相手の方ではなく担任の方を見ることや、相手からの質問に反応を示さず、担任の方を向くことが多かった。

2 これまでの教師の働きかけ

・質問ボタンを次々と押して相手が困っている場合、一度視線入力装置から注意をそらし、「〇〇の質問？それとも△△の質問？」と問いかけていた。また、相手が複数名いる場合は、担任が「〇〇先生？それとも△△先生？」と一人ずつ確認していた。

3 これまでの教材・教具 等

・視線入力装置、絵・写真カード

〈授業分析〉

1 方法

・本人が視線入力装置で質問内容を選んでから相手が答えるまでの流れと行動を観察。

・細分化したステップの中で改善点を検討した。

2 分析の視点

・本人と相手が直接会話できるような流れになっているか。

・担任が介している時に、担任はどのような役割を担っているか。

3 分析の結果と解釈

人物	会話の内容、様子	解釈
生徒	「好きな食べ物は何？」「好きな芸能人は誰？」「好きな音楽は何？」のボタンを順に押す	間違えて押したか、注視していたら押してしまったか、どれにするか迷っているのだろう
教師 A	「ん？どれについてかな？」	

生徒	反応せず担任の方を見る	あまり話したことのない人なので緊張しているか、私に支援してほしいのだろう
担任 ※1	「どれについて聞きたい？」「好きな食べ物について？好きな芸能人について？好きな音楽について？」（1つずつ指を指しながら反応を見る）	さっき押した 3 つのボタンのうちのどれかが聞きたいのだろう
生徒	「音楽について？」に対し「うん」と言う	音楽について聞きたいのだろう
担任 ※2	「そしたら、A 先生の方を向いて聞いてみよう」「A 先生、好きな音楽は何ですか？」	
生徒	A 先生の方を向いて教師と一緒に声を出す。	
教員 A	「なるほど、好きな音楽か。」	
生徒	笑顔で「うん」と言う。	音楽についてで合っていたのだろう
教員 A	「私の好きな音楽はね～、この歌知ってる？…（会話する）これが私の好きな音楽です。」	
生徒	笑顔で聞いた後、次の質問を探す。	

■：担任が介している部分は、生徒の質問を確定する役割（※1）、相手の確定・問いかける役割（※2）になっている。この役割に代わるコミュニケーション方法を検討することが解決につながるだろう。また、誰に話しかけているのかがわかればより話しやすくなるだろう。

〈改善内容〉

・質問ボタンを次々と押している場合は「決まったらこちらを向いて教えてね」と伝え、押し終わるまで待つ。
→押し終わって担任の方を向いたら、担任が質問内容を確認する。→質問内容が確定したら「誰に聞きたいの？」と聞く。→相手が確定したら、相手の方を向くように言い、相手には目が合ったら答えてもらうようにした。

・繰り返していくと、質問内容を1つ押した後に担任の方を見るようになった。そこで、「誰に聞きたいのかな？私？」と聞くと相手の方を向いたので、「そうそう、聞きたい相手の方を向くんだよ」「〇〇先生に聞きたい時は〇〇先生の方、私に聞きたい時は私の方を見るよ」と確認し、繰り返した。

・質問内容を1つ押して相手の方を向いた場合には、「あ！〇〇先生に聞きたいんだね」「よくわかったよ」と認めや褒める言葉かけをした。

〈授業改善後の生徒の変容〉

・質問を確定し、相手に問いかける流れを一人でできるようになった。

・授業だけでなく、休み時間なども取り組むことによって、ボタンを押した後に相手の方を向くことが定着し、担任を介さなくても相手と二人だけで話すことができるようになった。話し相手の教員も、質問の後に顔を向けてくれることで質問が確定するだけでなく、「自分に話しかけられている」という実感が持てるようになった。

〈成果と今後の課題等〉

1 成果

・担任を介さず、担任以外の相手とも視線入力装置を通じてある程度会話ができるようになった。

2 今後の課題

・質問をして相手が答えている途中で、最後まで聞かずに次のボタンを探したり押したりすることがある。

・選択肢の中に該当するボタンがないのか、声や表情で伝えてくるが内容の見当がつかない場合がある。